



士会だより



「令和7年度 兵庫県理学療法士協会 表彰」

巻頭言

p. 2

表彰

p. 3-4

各部だより

p. 5-7

大会長インタビュー

p. 8-11

数珠繋ぎ

p. 12



「人とのつながりが育む、私たちの力」

一般社団法人兵庫県理学療法士会
理事 樋笠 重和

会員の皆様、こんにちは。日頃より本会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。うだるような暑さが続く本格的な夏を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。臨床現場では、患者様や利用者様の体調管理に一層気を配りながら、ご自身の汗も拭いつつ、日々奮闘されていることと存じます。

私は、支部運営委員として県士会活動に参加させていただき、令和3年より支部担当理事を務めております。私たちが携わる理学療法は、知識や技術はもちろんですが、その根幹には常に「人」との関わりが存在します。対象者様お一人おひとりとの信頼関係、そして、多様な専門職が連携し合うチーム医療。これら全ての土台となるのが、心と心を通わせる「つながり」に他なりません。この「つながり」のあり方は、コロナ禍を経て大きく変化しました。県士会で企画される研修会もオンライン開催が主流となり、地理的な制約なく、また育児や介護の合間にも参加できるようになったことは、大きな前進であったと思います。しかしその一方で、研修会場で顔を合わせた仲間と交わした何気ない会話や、終了後に講師を囲んで行われた熱心な質疑応答、そういった場から生まれる偶発的な学びや連帯感が失われ、地域における会員同士のつながりが希薄化しているのではないかと、という懸念もまた、強くなっておりました。このかけがえのない「横のつながり」を再び育み、より強固なものにしていきたい。その思いから、各支部ではコミュニティ向上を目的とした事業を企画しております。これは単に研修会を対面形式に戻すということではありません。多様なニーズに応える企画を通じて、会員一人ひとりが「自分の居場所だ」と感じられるような温かいコミュニティを創造することを目指しています。理学療法士同士の強固なつながりは、個人の成長を支えるだけでなく、組織としての大きな力となります。地域包括ケアシステムが推進される中、医療・介護・福祉の現場で理学療法士に寄せられる期待はますます高まっています。私たち一人ひとりの声は小さくとも、組織としてまとまることで、地域社会に対してより大きな貢献を果たし、理学療法士の専門的価値を社会に示していくことができるはずです。

兵庫県理学療法士会は、これからも会員の皆様一人ひとりの「つながり」を大切に育んでいきたいと強く願っています。困った時には自然と手が差し伸べられ、嬉しい時にはその喜びを共に分かち合える。そんな温かいコミュニティであり続けるために、ともに活動をしませんか。

夏の暑さに負けない熱意をもって、ぜひ皆様も地域の活動へ積極的にご参加ください。皆様の一歩が、ご自身の未来を、そして兵庫県理学療法士会の未来をより豊かなものにすると信じております。

令和7年度 兵庫県理学療法士協会 表彰

令和7年度兵庫県理学療法士会定時総会にて、11名の方が表彰されました。
長く県士会の仕事にご尽力いただき、ありがとうございます。



写真左から 柿原 一登士先生、西原 浩真先生、前川 侑宏先生、間瀬 教史会長

【功労賞】 宇仁菅 敏行(三木山陽訪問看護ステーション)

【奨励賞】

前川 侑宏(神戸市立医療センター中央市民病院)
西原 浩真(神戸市立医療センター中央市民病院)
内田 健作(西脇協立脳神経外科病院)
田村 智之 (株式会社あかね)
山本 健太(甲南医療センター)

柿原 一登士(順心淡路病院)
阿部 純志 (公立八鹿病院)
石田 崇継 (西脇市立西脇病院)
安岡 謙太郎(ときわ病院)
吉澤 悠喜 (赤穂中央病院)

【受賞コメント】

この度は、功労賞を頂きありがとうございます。これまで県士会役員始め多くの会員の皆さまに支えられ、また皆さまと関わりが持てた経験が、私自身成長できたと感じております。コロナ禍以来、WEB事業が増え利便性が得られた反面、セラピスト間の繋がりが希薄な傾向にあります。今後もコミュニティの大切さを運営に反映できればと考えています。

宇仁菅 敏行(三木山陽訪問看護ステーション)

医療で社会をつなぐ「医療社会人」を目指す



宝塚医療大学
TUMH
TAKARAZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL AND HEALTH CARE
0120-00-1239

保健医療学部
理学療法学科 柔道整復学科 鍼灸学科 口腔保健学科
和歌山保健医療学部
リハビリテーション学科 看護学科
観光学部
観光学科 2024年4月開設



解き放て、
医の力

実践的なIPEで、強い医療人へ

兵庫医科大学は、医・薬・看護・リハビリテーションの4学部を擁する総合医科大学。医学部医局を擁したIPE(多職種連携教育)で人々に支えるパワーを、未来に託せる強い医療人を育成します。

EMPOWER THE PEOPLE 心に響く医を、私たちがいるかぎり

医学部 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部

H 兵庫医科大学

日本理学療法士協会 協会賞 受賞

おめでとうございます！



井垣 誠(公立豊岡病院組合立豊岡病院)先生が日本理学療法士協会 協会賞を受賞されました。

～精鋭の教員陣による人間教育～

リハビリテーション学部
理学療法学科

神戸国際大学 ST MICHAEL'S COLLEGE

リハビリテーション学部／経済学部
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6
TEL: 078-845-3111 (代表) FAX: 078-845-3200

リハビリ訪問看護ステーション番 アスリートサポート部 ソーシャルメディア広報部

Steps
想いをカタチに

予防医療部 ウイメンズヘルス部 ICTサポート部

兵庫事務所 TEL 078-599-7990 FAX 078-330-3754
〒652-0033 神戸市兵庫区西上橋通 1-1-23 ヴィラ神戸 II 101

神戸西事務所
〒655-0013 神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203

10学部7研究科、総合大学で豊かな人間性を育む
総合リハビリテーション学部

理学療法学科
・理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科
・作業療法士国家試験受験資格

総合リハビリテーション学研究科
大学院 修士課程・博士後期課程

神戸学院大学 KOBE GAKUIN UNIVERSITY
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
有瀬キャンパス TEL (078) 974-1551 (代表)

救急救命からリハビリテーションまで
現場さながらの「チーム医療を学ぶ」

神戸医療福祉専門学校中央校
650-0015 神戸市中央区多聞通 2丁目6番3号
介護福祉士科 鍼灸科
精神保健福祉士科 社会福祉士科

神戸医療福祉専門学校三田校
669-1313 三田市福島 501-85
理学療法士科 作業療法士科 言語聴覚士科
救急救命士科 義肢装具士科 4年制

姫路医療専門学校
670-0927 姫路市駅前町 27番2
作業療法士科 言語聴覚士科
臨床工学技士科 救急救命士科

各部だより

災害対策部

JRAT初動対応チームスタッフ(Rスタッフ)養成研修の オンライン演習参加についての報告

2025年3月16日にJRAT(一般社団法人 日本災害リハビリテーション協会)のRスタッフ養成研修のオンライン演習があり、私は研修にファシリテーターとして参加させて頂きました。JRATの中には支援活動内容によってR-D-Lスタッフ(図1)等に分けられ、その中でRスタッフはJRAT初動対応チームスタッフ(JRAT Rapid Response Team Staff)のことで、大規模災害発災直後に「JRAT初動対応チーム」として活動します。

資格(称号)		役割	資格付与の条件
JRAT初動対応チームスタッフ (JRAT Rapid Response Team Staff)	R-スタッフ	初動活動サポート	・R-スタッフ養成研修の受講
JRAT災害支援スタッフ (JRAT Disaster Assistance Staff)	D-スタッフ	避難所支援活動	・BHELPおよびPFAの受講もしくは3日以上避難所支援活動経験者 ・JRAT指定のE-ラーニング研修の受講
JRATロジスティクススタッフ (JRAT Logistics Staff)	L-スタッフ	本部活動	・REHUGの受講もしくはR-スタッフ、日本DMAT隊員、JIMTEF災害医療研修アドバンスコース修了者のいずれかもしくは3日以上の実災害でのロジスティクス業務経験者 ・JRAT指定のE-ラーニング研修の受講

図1 R-D-Lスタッフの整理 JRAT研修資料より改変

Rスタッフ養成の始まりは、数々の大規模災害時の経験から初動対応が遅く、対応内容も不十分だったことから初動対応の重要性が明らかとなりました。また初動対応は行政等との対応を含め通常の災害支援活動とは大きく異なるため、初動対応に特化した人材を養成する事になりました。Rスタッフは本部の立ち上げ、避難所や被災地の情報収集を行い、JRATが被災地で円滑に動けるように行政・多職種団体・JRAT中央災害対策本部などと調整を行っています。(図2)

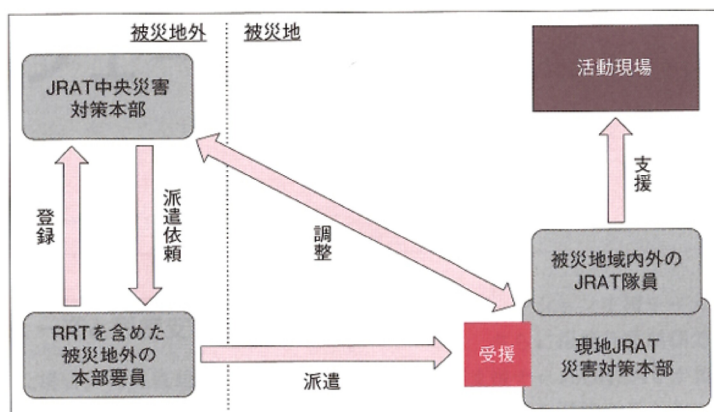


図2 JRAT受援体制

災害リハビリテーション標準テキスト第2版

C	指揮命令系統
S	安全の確認と確保
C	通信確保
A	評価
R	リハビリテーショントリアージ
I	ICFに基づいた支援
C	地域リハビリテーションへの移行

図3 CSCARIC JRAT研修資料

Rスタッフ養成研修における評価はCSCARIC(図3)などを活用し、シナリオに沿って学ぶことができます。CSCARICは災害医療の原則であるCSCAIにリハトリアージR:RehaTriage、ICFに基づいた支援(I:ICF)、地域リハビリテーションへの移行(C:CBR)を加え、これを活用して避難所評価時をまとめていくことで多職種にも必要なことが伝わりやすくなります。他にも派遣に至るまでに準備することや派遣後の動きなど様々なことを学べます。

政府の地震調査委員会より、南海トラフは30年以内に起こる可能性は80%となりました。改めて平時からの準備が重要だと感じています。また全国の中でも兵庫県はRスタッフの人数が増えています。災害時の初動対応に興味のある方は是非研修にご参加下さい。詳細はJRATホームページ (<https://www.jrat.jp/2892.html>) に掲載されていますので、是非ご検討ください。

東 恭弘(社会医療法人愛仁会 尼崎だいもつ病院)

こども生涯支援部

『理学療法士による発達性協調運動障害（DCD）児の支援』

令和7年2月16日(日)、士会員対象の研修会を神戸臨床研究情報センターにて開催しました。テーマを「理学療法士による発達性協調運動障害（DCD）児の支援」とし、畿央大学の信迫悟志氏、山田病院の橋添健也氏をお招きし、DCDの基礎知識から具体的な介入方法の講義、症例を提示していただいたのグループワークをしていただきました。

今までOTやSTが主に介入してきたDCD児ですが、最近では理学療法士の働く場が広がってきたため、関わる機会も多くなってきているような印象で、参加者の所属先も病院や訪問看護ステーション、デイサービス等様々でした。DCD児と関わる機会が増えてきているものの、中々DCDをテーマにした研修会は少なく、今回は基本的なことからDCDについて学べる良い機会だったのではないかと感じています。参加者からも「基本的な症状から評価まで知れてよかった」「臨床に参考になる内容だった」と好評でした。また、当部では久しぶりの対面研修となり、グループワークで参加者と一緒に様々な検討ができて良かったです。参加者からも「色々な意見が聞けてとても楽しかった」との感想をいただきました。このように県内で小児に携わる理学療法士が集まり顔見知りになれる機会が増えればいいなと思っています。今後も会員の皆様にとって日々の実践に活かせるような研修会を企画していきたいと思います。



女性だから、できるケアがある。
女子大学で、女性のための理学療法を学び、リーダーシップがとれる理学療法士へ。

看護リハビリテーション学部
理学療法学科

甲南女子大学
KAMINOMIYAMA WOMEN'S UNIVERSITY
〒658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23

理学療法学科公式サイト  理学療法学科公式 Instagram 



創立51年の歴史を持つ医療の総合教育校

- 診療放射線科
- 臨床工学科
- 視能訓練士科
- 理学療法士科
- 作業療法士科
- 言語聴覚士科
- 歯科衛生士科
- 臨床工学専攻科

Since 1973 医療法人社団 慈恵会
KCC 神戸総合医療専門学校
〒654-0142 神戸市須磨区友が丘7丁目1番21
お問い合せはコチラ TEL 078-795-8000(代) 検索 HP <https://www.kobecc.ac.jp> 

各部だより

スポーツ活動支援部

『兵庫県高校野球サポートの実際』

2025年5月17日(土)、ハーベスト医療専門学校にて、スポーツ活動支援部野球班により「兵庫県高校野球サポートの実際」と題し、現場で対応しうるアイシングと脱臼について実技を踏まえた勉強会を行いました。

野球現場においては何となく通例化しがちな投手アイシングも、改めて生理学的・リカバリの機能学的視点で理論立てて整理することで、発見と再確認出来たところも大きいものでした。加えて、アイシング1つとっても、実践してみることで、意外にも手際や質が影響し奥深いことに気付きました。

また、これまでのサポートで実際に起こった脱臼事例を取り上げ、病態整理・状況把握と評価・対応について手順を追って供覧しました。また、そこに関わる現場に必要な評価や対応方法について実技も行いました。この現場に必要な評価・対応方法には、リスクや症状増悪の観点から、私たちが臨床業務で用いる評価や治療が似付かわしくないものや不適応な場合も考えられます。その点においても、講師の上原先生より留意点とともに説明・実演されていました。通常、医療・福祉機関に勤めている理学療法士は、救命救急に関わり素早い判断と対応を求められることはありません。こうした現場に赴くことで、普段の臨床場面とはまた違う分野、知識とスキルが求められ勉強になりました。

研修会後も、スタッフ間や受講者間で質疑や情報交換・交流に多くの時間が割かれる風景を至るところで目にしました。実技研修とともに対面で行う研修会ならではの有用な機会と感じました。



スポーツ活動支援部のサポートには日頃スポーツ選手に関わる事のない病院、介護施設勤務の理学療法士も多く参加していただいています。スポーツ活動を支援するサポートスタッフに興味のある方は、QRコードまたは兵庫県理学療法士会HPにアップされる「現場活動のお知らせ」、「勉強会のお知らせ」に是非お申し込みください。皆さんとスポーツ活動のサポートができることを楽しみにしております。

【申し込み先】スポーツ活動支援部 中西拓也 e-mail:supokatsu2008@gmail.com





第36回兵庫県理学療法学会大会大会長インタビュー

宝塚リハビリテーション病院 中谷知生

機は熟した

“地域の未来を支える
理学療法の挑戦と革新”

宝塚リハビリテーション病院 中谷知生



今年度、第36回兵庫県理学療法学会大会の中谷大会長に公募に至った経緯や今回の県学会の見所やテーマの背景、そして今後の兵庫県における学会の展望などその熱い思いを語って頂きました。

大会長公募の経緯と役割

なぜ今回の学会の大会長に公募しようと思ったのですか？

私は兵庫県士会の理事に就任する以前から、日本神経理学療法学会や日本支援工理学療法学会において理事や評議員を務め、学術事業の運営に関わってまいりました。これら専門性の高い学会では、ある程度テーマを絞り込むことで、コアな学術的情報の交換を目的とした事業運営が行われています。

一方で、学術的なコミュニケーションにおいては、より身近なコミュニティ、すなわち顔の見える関係性のなかで情報を共有することにも、大きな意義があると感じてきました。

兵庫県士会の理事として学術事業に関わるなかで、士会が非常に大きな影響力と実行力を有していることを実感しました。そして、その力を会員の皆様が実際に体感できる場こそが、士会主催の学術大会であると再認識した次第です。士会主催の学術大会には、「身近さ」「多様なテーマ」「地域の実情に即した内容」といった特長があります。こうした大会の運営を通じて、会員の皆様に「兵庫県士会の会員であることの価値とメリット」を直接感じていただきたい—そのような思いから、今回大会長へ応募いたしました。

思い出に残る学会はありますか？それは、どのような学会ですか？

もうずいぶん前になりますが、第26回兵庫県理学療法学会大会が赤穂市で開催されたことがありました（たしか…ですが）。私は宝塚の職場から、後輩と一緒に新快速の赤穂行きに乗って向かったのですが、「一体いつになったら赤穂に着くんだ…」と途中で何度も思うほど、兵庫県の広さを改めて実感した大会でした。

同時に、「こんなにも広大なフィールドを抱えていることこそが、兵庫県士会の強さの源なのだな」と感じたのを覚えています。

これまでの大会運営と比べ、リーダーシップの取り方に変化はありましたか？

正直なところ、これまでの大会運営がどのような形で行われていたのか、私は詳しく存じ上げません。ただ、自分自身について言えば、「面白そうな企画をどんどん思いつく力」だけは、ちょっと自信があります笑 一方で、実務的な面ではやや不得手な部分もあり、準備委員長の前川先生には本当に多くの場面で助けていただいています。まさに“おんぶにだっこ”状態で、全面的に支えていただいています。

もし学術大会当日に前川先生をお見かけになったら、ぜひ一言、ねぎらいの言葉をかけてあげてください。まさにこの学術大会の“屋台骨”として、陰に日向に支えてくださっている存在です。

学会の見所とテーマの背景

今回のテーマ「機は熟した」にはどのような思いが込められていますか？

これは正直に申し上げると、学会準備のなかで“咄嗟に出てきた”キーワードなんです。第36回大会の企画にあたり、まずは一緒に走ってくれるキーマンたちをリクルートする必要がありました。そのときに思わず口をついて出た口説き文句が「私が思い描いているこの学術大会をやり遂げるには、今、このタイミングで、このメンバーでなければならない。今なら、このアクロバティックな構想を現実にできる。だからこそ、あなたの力がどうしても必要なんです。まさに“機は熟している”んです！」—という、我ながらなんとも情熱的な一言でした。言葉にして出てきた瞬間、「あ、このフレーズをそのまま大会テーマにしよう」と、直感的に決めました。こんなふうテーマを決めるやり方が“アリ”なのか“ナシ”なのか…正直、私にもよくわかりません笑でも、自分の中では確かな手応えがありましたし、何よりこのテーマに背中を押されるようにして、とりあえずここまで走ってきた気がします。

但馬と神戸、2会場での開催という形式にはどんな狙いがありますか？

先ほども申し上げた通り、私の中で強く印象に残っているのが、赤穂で開催された学術大会です。あのときの長い移動距離を体感しながら、「兵庫って本当に広い」「その広さこそが県土会の懐の深さだ」と実感した記憶があります。近年は、オンラインで手軽に学術情報を得られる時代になりました。しかし、だからこそ私は、県土会主催の学術大会には“実際に現地へ赴き、対面で交流する”というプロセスにこそ大きな意味があると考えています。その土地へ足を運び、風土を肌で感じ、人と語らう—その経験を通じて、兵庫県の地理的な広がりや多様性を実感できるのは、リアル開催ならではの魅力です。そういった思いから、今回はどうしても「但馬での開催」にこだわりました。赤穂であれば、新快速に乗れば電車が連れて行ってくれます。でも、「では今度は兵庫を縦に移動してみよう」と考えたとき、自然と但馬開催というコンセプトにたどり着いたのです。とはいえ、但馬単独での開催には、会場のキャパシティなど物理的な制約もあります。そこで今回は、サテライト会場として神戸を併設するという形をとりました。兵庫県全域の会員が、より参加しやすく、より身近に学術大会を感じていただけるように—この「但馬×神戸の2会場同時開催」は、私なりに模索した“新しい学術大会のかたち”へのひとつの答えです。

注目の講演やプログラムはありますか？

今回の学術大会では、但馬会場では「地域での理学療法の可能性」、神戸会場では「新しい技術による理学療法の可能性」という2つのテーマを掲げ、それぞれに特色あるプログラムを用意しています。まず但馬会場では、千葉大学の近藤克剛先生、井手一茂先生をお招きし、「街づくりを通じた健康へのアプローチ」をテーマに講演を行っていただきます。その中で、理学療法士が地域でどのように活躍できるのか、新しいフィールドでの可能性を具体的に探ります。私たちの専門性が“医療”を越えて広がっていく実感を持てる、まさに必聴の内容です。一方、神戸会場では、脳卒中や運動器といった臨床で日々直面する課題に対して、「新しい技術がどのように役立つのか」という視点から、講演とハンズオンセミナーを企画しています。講師陣には、現在兵庫県内の臨床現場で最前線を走る先生方をお招きし、現場感あふれる実践的な知見を共有いただきます。さらに今回は、事前参加登録者限定の動画コンテンツもご用意しています。但馬・神戸どちらの会場に参加される方も、事前に配信される動画を通して、より深く学びを得ていただける仕組みとなっています。プログラム・講演内容については、もう正直、自信しかありません！詳細は今後、学術大会の公式ホームページやSNSで随時発信してまいりますので、ぜひチェックしてみてください。

学会案内の大会長の写真を拝見すると「着物」を着ておられますが、どうしてでしょうか？

実は私、理学療法士でありながら、落語家としても活動しております。普段は回復期病棟で臨床に従事していますが、地域の通いの場などでは、落語を通じて介護予防の情報を楽しく発信しています。今回の大会では、但馬会場で「地域での理学療法の可能性」をテーマに情報を共有する予定です。そうした場においては、やはり“自分らしいスタイル”で登壇したいという思いがありまして—つまり、和服が私の“正装”なんです。なので、大会案内の写真の着物姿は、ちょっとした“前フリ”でもありつつ、私の活動スタイルそのものを表した一枚、というわけです。



会場を二つに分け、オンラインで繋ぐという試みの準備で最も大変だったことは？

正直に申し上げますと、一番大変だったのは、やはり「運営コストがめちゃくちゃ膨れ上がる」という点に尽きます。リアル2会場+オンライン接続+オンデマンド配信…と、やりたいことを詰め込んだ結果、想像以上の規模になりまして、もう本当に、予算との闘いです。ですので皆さま、どうかぜひご参加ください！但馬会場でも、神戸会場でも、あるいはオンデマンド参加でもどの形でも大事な情報を確実に届けられるよう、準備は万全を期しています。繰り返しになりますが、そのぶん本当にコストがかかっております。いま、必死で頑張っています。はい。

兵庫県全域の理学療法士にとって、より参加しやすい大会にするための工夫とは？

学術大会を運営するうえで、「参加しやすさ」は当然ながら非常に重要な要素だと考えています。その意味では、多くの会員にとってアクセスの良い神戸で開催するのが、もっとも合理的でシンプルな選択肢かもしれません。けれど、私が理想とする“県士会の学会”は、そうした単純な利便性の追求とは少し違うところにあります。これは冒頭でも述べましたが、「それでもこの内容であれば、移動してでも参加したい」と思っただけのような、そんなプログラムを提供することこそが、本当の意味での“参加しやすさ”だと思っています。だからこそ今回は、但馬での開催にも挑戦しました。内容には、絶対の自信があります。みなさま、どうか“わざわざ”の価値を感じに来てください。繰り返しますが——内容には本気で自信があります。

これまでの大会と比べて、今回特に挑戦した点は何ですか？

さまざまな挑戦がありますが、やはり象徴的なのは「但馬をメイン会場とした」という点です。皆さん、但馬の理学療法って、実はすごく進んでいるんです。でも、「具体的に何が進んでいるのか？」と聞かれると、意外とご存じない方も多いのではないのでしょうか。その“答え”を、今回のいくつかの企画を通してお伝えするつもりです。会場に来られない方は、甲南女子大学会場でもオンライン越しにご覧いただくのもよし、オンデマンドでじっくり学んでいただくのもよし。でも、やっぱり一番おすすめなのは、実際に但馬の地に足を運んでいただくことです。現地ならではの空気と、そこで活躍する理学療法士たちの熱を、ぜひ直接感じてください。会場で皆さまとお会いできるのを、心より楽しみにしています。

準備を進める中で、チームとしての印象的なエピソードがあれば教えてください。

準備委員が初めて一同に会したのは、第35回学術大会の会場でした。その場で私から、最高級の栄養ドリンクを全員にお渡ししました。「いざという時に飲んでください」というメッセージを添えて。ちょっと冗談交じりではありますが、大会長として本気のエールでもありました。というのも、準備委員というのは本当に大変な役割で、時には“24時間戦えますか？”というくらいのギリギリの状況で走り続けていただいています。それが“正しい働き方かどうか”という議論は一旦置いておくとして……
そうして積み上げてきた一つひとつの企画には、言葉では言い表せない熱や思いが詰まっています。だからこそ、今回の学術大会では、そうした準備の軌跡も含めて、皆さんに味わっていただけたらと思っています。

今後の展望と理学療法の未来

本大会が兵庫県の理学療法にどのような影響を与えたいと考えていますか？

今回の学術大会では、オンデマンド配信も行います。これは、兵庫県内の理学療法士だけでなく、全国の理学療法士に向けて積極的に情報を発信するという意図を込めた取り組みでもあります。私自身、学術局を担当する理事として日々活動するなかで、兵庫の理学療法が持つ力の大きさを実感しています。一方で、その力がまだ十分に全国には伝わっていない——という歯がゆさも感じています。だからこそ今回の学術大会では、「兵庫の理学療法の底力、ここにあり」ということを、全国の皆さんにしっかりと印象づけたいと思っています。兵庫発の理学療法の実践と知見が、他地域の刺激や参考となり、ひいては全国全体の理学療法の質向上につながっていく。そんな広がりをおの大会から生み出せたら、本望です。

今後の兵庫県理学療法学術大会はどんな方向へ進んでいくと思いますか？

「兵庫は日本の縮図」と、よく言われますよね。

北から南まで多様な自然・文化・産業が広がり、その風土は全国の縮図であると。私は、兵庫県内の各地域で理学療法が直面している課題は、そのまま全国の理学療法士が向き合っている課題でもあると考えています。専門特化型の学会では拾いきれない、地域に根ざした課題——。

それに真正面から向き合うことこそ、都道府県士会主催の学会大会の意義だと思うのです。

そして兵庫県は、その多様性ゆえに、非常に幅広いテーマを扱うことができる土壌を持っています。

今後の兵庫県理学療法学術大会は、「兵庫県士会員ファースト」でありながらも、日本全体の理学療法の課題に対しても方向性を示すような場へと、進化していくと確信しています。

その新たな一步を踏み出す起点が、まさに今回の第36回学会大会です。

最後に、大会参加者へのメッセージをお願いします

ここまで長い記事を読んでもくださった皆さまには、もう十分、私の思いは伝わったのではないかと思います。もう、私からのボールはすべて投げ切りました。

あとは、皆さんのアクションを待つだけです。

ぜひ、参加してください。絶対に損はさせません。

一機は熟しています。

但馬で。神戸で。

そしてオンデマンドの画面越しで。

皆さまとお会いできるのを、心より楽しみにしています。

★第36回兵庫県理学療法学術大会の参加申し込みは7月16日から開始予定となっております
また、第38回・第39回の県学会大会長を公募しております。
どちらもたくさんのご応募をお待ちしております！

第38回 (2027年) 開催!
第39回 (2028年)

「機は熟した」

県学会大会長公募

詳細はこちら

兵庫県理学療法士会 学会運営審議会

機は熟した
地域の未来を支える
理学療法の
挑戦と革新

第36回兵庫県理学療法学術大会

2025 10/19(日)

大会長 中谷 知生
定例会見・パネラーセッション開催

但馬会場: 但馬長寿の郷
神戸会場: 甲南女子大学

初めの2会場 開催!!

大会運営事務局: 第36回兵庫県理学療法学術大会 事務局
神戸市立医療センター中央市民病院
〒650-0947 兵庫県神戸市東灘区御影2-1-1
第36回 株式会社プロアタキブ

兵庫県で
活躍する
理学療法士
～数珠つなぎ～

私たちは整形外科・
肩とスポーツのクリニック
佐々木 貴哉氏

略歴

2010年3月
関西学研医療福祉学院理学療法学科 卒業
医療法人社団 五誓会 あさひ病院 入職
2019年～
やす整形外科クリニック 入職

2024年～

私たちは整形外科・
肩とスポーツのクリニック 入職

資格

運動器認定理学療法士
ファンクショナルローラーピラティス
アドバンスインストラクター
3学会合同呼吸療法認定士
NSCA-CSCS
福祉住環境コーディネーター2級

モットー

心に青りんご

趣味

楽器演奏・ゴルフ



理学療法士としてのスタートは、急性期から生活期の一般病院に入職し、多疾患を併存した高齢患者への理学療法に従事しました。そして、10年目に整形外科クリニックへ転職し、私にとって外来での運動器疾患に対する理学療法はほぼ未経験分野であったので、一つの挑戦でした。新たな所属先でも10年目に関わらず、一から指導いただき、感謝しております。

また外部活動として4年目から兵庫県理学療法士会の理学療法啓発部にも所属し、一般の方々や学生に対して理学療法士の啓発活動に従事しております。私のメンターである啓発部部長の水島先生とも啓発部で出会い、縁あって現在の所属先である院長の立原久義先生をご紹介頂き、お人柄やクリニックのコンセプトなど多くの魅力を感じ、入職させて頂きました。当院では、外来での理学療法に加えてピラティスの提供も行っており、毎月ピラティス教室を開設しております。私は外来での理学療法やピラティスを提供する上で自身のケアをいかに自宅で取り組んで頂けるかが課題であると感じています。そのためには身体の良い面、悪い面の気づきを提供する事が大事であると考えます。それには、やはり丁寧な説明・評価・治療技術があってこそだと思います。対象者にとって納得ができるものを提供できるように日々研鑽を積んでいきたいと思っています。次は神戸朝日病院でリハビリテーションに従事されている金明秀先生にお繋ぎします。

表紙写真

各令和7年度、兵庫県理学療法士会の表彰にて、
県士会事業における「功労賞」1名、「奨励賞」10
名が表彰されました。今後たくさんの士会員の方
に士会事業を盛り立てて頂けますと嬉しく思い
ます。今後ともどうぞよろしくお願い致します！

県士会だより 第207号

発行

一般社団法人兵庫県理学療法士会

発行責任者／間 瀬 教 史

編集者／筒 井 章 悟

ホームページ

<http://hyogo-pt.or.jp/>



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

兵庫県理学療法士会事務所 所在地

〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 4階

TEL 078-367-7311

